

144MHz

JR3PIO 関森 源治 Genji Sekimori

2メートル・バンドと呼ばれ親しまれている144MHz。普段は近場のQSOがメインですが、Eスポと言われる異常伝搬により、ときとして全国的なQSOが可能になる魅力も。普段はローカル・ラグチューを楽しみ、EスポでDX交信も楽しめる入門バンドの一つです。

ここ数年の新市や市町村合併によるJCC、JCG狙いの方も増えてきました。そのおかげで、144MHzでの移動運用も盛んに行われているようです。ところが、筆者が最近、耳にしたのが「住民の通告により、すぐパトカーが来た」という出来事。周囲の住民には、移動運用をするハムが不審者に見えるのかもしれませんが、そういう場所では、ハムの移動運用であることをPRする、なんらかの対策を講じたいところです。

また、144MHzなどのVHFの場合は少しでも高い所へとなりがちです。したがって、山岳移動の場合に山頂を占領して、一般の登山者から蟬壁を買ったという話もよく耳にします。

アマチュア無線家は「良き社会人であれ」との基本は、やはり忘れてはなりません。

さて、以前の本欄で、EスポでDXを捉える確率の高い方法として、145MHzメイン・チャンネルのワッチを、と書きましたが、偶然この方法で中国局と交信した方がいらっしゃいました。時間が少し経過してしまいましたが、紹介します。

FMメイン・チャンネルで中国局と交信

当日は、50MHzのBY(中国本土)、BV(台湾)、VR2(香港)方面がEスポで強力に聞こえていました。

それでは144MHzはどんなようすかなと思い、IC-7400で145.00MHzメイン・チャンネル(FM)を聞いたところ、聞き慣れないアクセントのCQが聞こえました。よく聞いてみると「CQ DX BG1LKK/4」(写真1)、中国の局ではあり

ません。一瞬、耳を疑いましたが、やはり間違いのないので応答しました。RSレポートは59/59、QSLカードの交換を約束して交信が成立しました。

その後、BG1LKKはCQ DXを何回か出し、断続的に聞こえていましたが誰も応答する局はなく、約10分後にフェードアウトしました。信号はRS59+からRS33あたりまで浮き沈みをしており、どういわけか、メイン・チャンネルでパケットの信号も聞こえていました。

狙っていてもなかなかできない144MHzの海外交信が偶然、運良くできました。あとで調べてみると、相手局のQTHは江蘇省無錫で、相互間距離は約1500kmでした。私は50MHzの状態から見て、この日の交信もEスポによるものだと思っています。

de JA3APU 直原 興三

航空 PAR AVION		中国邮政明信片 Postcard The People's Republic of China	
BG1LKK/4		420	
云国根 Yun Guo Gen		E-mail: yunguogen@163.com	
To Radio: JA3APU CFM QSO SWL			
DATE	UTC	MHZ	MODE RST
2007 6-17	0525	145.0	FM 59
CQ 24 ITU 44 PM01EO QSL TNX PSE			
RIG: YAESU FT-897D			
ANT: DP-X50M			
OP: 云国根		QTH: WUXI 无锡	
ADD: YuXinZhuang NanCai SHen Yi		顺义南彩辛庄	
Bei Jing 101300 CHINA		中国 北京 101300	

Good 2米 DX

写真1 BG1LKK/4から届いたQSLカード

交信データ

交信日時: 2007年6月17日
0525Z~
相手局: BG1LKK/4
周波数: 145.00MHz モード: FM
QTH: 中国江蘇省無錫(Wuxi)
上海市西北西約120km
リグ: FT-897D
自局QTH: 滋賀県彦根市
(GL: PM85BF)
リグ: IC-7400(50W)
アンテナ: 10mH GP

Nov. 2007

【筆者プロフィール】

1926年、大阪市生れ。病院事務長として長く勤める。1947年よりSWL、1973年にJR3PIO開局。近畿各愛好会会員。電波適正利用推進員。E-Mail: jr3pio@lapis.plala.or.jp

144MHz

JR3PIO 関森 源治 Genji Sekimori

2メートル・バンドと呼ばれ親しまれている144MHz。普段は近場のQSOがメインですが、Eスポと言われる異常伝搬により、ときとして全国的なQSOが可能になる魅力も。普段はローカル・ラグチューを楽しみ、EスポでDX交信も楽しめる入門バンドの一つです。

今年も残り少なくなり、オフシーズンの気配が濃厚です。2007年の144MHzの成果はどうだったのか、電子メールなどを利用した、144MHzマンの皆さんへのアンケート調査が行われているようです。データがまとまり次第、本欄でもご紹介できる予定です。

温泉巡りの中で出会った144MHzの魅力

1996年ごろに、趣味であった温泉巡りのときの楽しみの一つとして、移動運用を始めました。

そのころは神奈川県に住んでおり、移動手段はバイク。長期休暇のときは毎回、北海道や九州へ移動して昼間は温泉巡りし、多いときは日に十数か所の温泉に浸っていました。

夜は近くの山頂へ行き、テントの中からバイクのバッテリーでV/UHFにQRV、2～3時間ほど地元局との交信を楽しんで寝る、こんなスタイルで約4年が経過しました。

2000年になって、転動のため茨城県へ引越しました。平屋の屋根上にGPを上げて、144MHz SSBを開いたところ、3エリアの局が入感、急ぎょコンクリート柱(10m高)に9エレメント×2八木のアンテナを上げたところ、4エリアや5エリアとの交信が成立したのです。

それまではFMモードでの経験しかなく、144MHz帯ではローカルQSOしかできないものと思っ

ていた私にとって、このQSOは大きな衝撃となりました。

このころから144MHz SSBの世界にどっぷりとはまり始めました。移動手段は車となって機動力が増し、泊まりはテント泊から車中泊に変わり、全国のあちこちへ湯巡り遠征。年に3～4万kmほどは走ったでしょうか。しかし、144MHzの移動運用のアンテナはGP程度の簡易なものでした。

2002年、茨城県守谷市市制記念の移動サービスでバイルアップになり、それがきっかけで移動運用のリクエストを各局からいただくようになりました。それに応えるべく温泉巡りとセットで珍市珍郡移動をするようになりました。

多くの皆さんからいただく要望に応えながらの移動運用は、最高の喜びでもあります。無線で呼ばれる楽しみや喜びを知り、気がつくといつの間にかJCC/JCGはかなり増えていました。アワードを意識し始めたのもこのころでした。

2003年にはJF1CQD 関上さんから軽くて高性能なアンテナと少ない時間で設営撤収のできる移動設備を紹介していただき、さらに移動運用が楽しくなりました。

2004年ころから始まった新市誕生ラッシュ時にはフル稼働状態でした。温泉巡りを忘れて、ほぼ毎週のように移動運用へ出かけ、また逆にサービスしていただける局も多く、さらにJCC/JCG稼ぎ



写真1 常陸大宮市からQRV中のJN1JFO

が加速していきました。そして、このころにはJCC 700、JCG 400オーバー、144MHz SSBを始めて8年目にしては、上出来な成果だと自己満足しています。

現在、温泉巡りのほうはかなりペースダウンしていますが、継続中です。いまだ訪れたことのない温泉に行くのを第一目的として、このころは4、5、6、8エリアと離島が中心となっています。マイカーでの遠征が困難な所は飛行機とレンタカーでの移動が主となります。無線は制限されますが、144MHzはマグネット基台にモバイル・ホイップで、HFは伸縮ポールにワイヤ・アンテナでQRVしています。

最近茨城県の新市サービスもほぼ完了したので、また珍しい市郡町村への移動を開始する予定です。聞こえていましたら、ぜひお声掛けください。

なお、現在までの戦果では、温泉6900湯、移動運用ポイントは約410地点です。

de JN1JFO 今成 徹

【筆者プロフィール】

1926年、大阪市生れ。病院事務長として長く勤める。1947年よりSWL。1973年にJR3PIO開局。近畿各愛好会会員。電波適正利用推進員。E-Mail: jr3pio@lapis.plala.or.jp

Dec. 2007

189